# 環境・農村開発・女性自立

## 水道工事が始まったラワン村 ゴム苗木の成長も順調です

5 月末の訪問時には、湧水地点を雨期の泥水混入から守る暫定処置が終わり、水道管も、とりあえず集落の中心部まで敷設されていました。現時点では、村で唯一安全な水です。早朝、ポリタンクを用意したこどもたちが水汲みの順番を待っていました。

11 月までに、総延長 2.3km のパイプの敷設が終わり、共同水飲場 7 か所が設置される予定です。水源涵養林育成も住民の責任で実施します。

（今井記念海外協力基金助成）

土壌の乾燥を防ぐため、伸びるに任せているコゴングラスの中、2 m を超えるゴムの木が等間隔に並んでいました。雨期に入り、樹間でのコーン栽培も始まります。

（2 年前の三井物産環境基金事業の受益者村会議員モンさんの畑で）

## セブ湖に浮かぶ島で、人と森の共生を目指す
### ティバウ島生態系修復事業 2 年目

「ビーズ製品も作れるけれど、売る場所がない」

5 月末の訪問時に参加した住民集会では、販路が問題と訴えた女性がいました。丸木舟で 20 分ほどの対岸には、土産物店が並び、COWHED 店舗もあります。舟での通学は、雨風が強い日は危険で、低学年用分校が島にあればという要望もありました。

2 年目の今年、果樹苗や在来種植林のほかに、環境保全と無関係に見えるビーズ生産支援を含めたのは、森を守るには代替収入源の確保が重要だからです。島の女性で COWHED メンバーはまだいませんが、近い将来、COWHED を通じて、私たちも島の収入向上の手助けができればと思います。

（イオン環境公益財団助成）

## ダグマ山系の環境と生活を守る活動
### ― レイクセブのタブロ村でも始動 ―

7 月事業開始の予定で助成決定をまっていたタブロの事業に、7 月 1 日付で決定の通知をいただきました。この「緑の募金」を原資とする国土緑化推進機構の助成金はこれまで 4 件受けていて、直近の事業としては、前号で報告のタラヒク村があります。

ムスリムとティボリ両民族による住民組織 MATUFA の苗木管理が行き届いている隣町スララの村タラヒクの事例は、タブロ村の新受益者にとって格好のモデルです。事業予算には、タブロから車で約 1 時間のタラヒク村訪問のトラック借り上げ費も計上しました。

現地 PFP のニックからは、レイクセブ町農業課、バランガイ役場、タブロのリーダーたちと受益住民選抜について話し合いをしたという報告がありました。

新たな 30ha のゴム苗木と 5ha の在来種の植林が、地域住民の生活や環境改善にプラスになる日のために適正な事業実施に努めたいと思います。

## 卒業生たちの挑戦－住民組織 BSDA その後－

ボルールの特産といわれるバーベキュースティック作りは、竹を細く裂くその労力に比して 100 本一束 1 ペソと極端に安い。それでもコロナダル市の市場までバイクで 1 時間弱の村では、貴重な現金収入源として多くの女性が子育ての傍ら内職に励んでいます。 (関連記事 P7 藤川氏寄稿文)

前号で紹介の卒業生 3 人が設立した住民組織 BSDS では、米その他の生活必需品を扱う店舗（サリサリストア）運営に加えて、このバーベキュースティックの共同出荷を始めました。生産者(メンバー)には、2000 本(20 束)のスティックと交換に店舗の米 1 kg が渡されます。この共同出荷でも収益が出始めて、40 名のメンバーは組織化のメリットを実感し始めたようです。

教育を受けたビラーンの青年たちによる村の仲間との挑戦を今後も見守っていきたいと思います。

組織指導のノウハウを伝えるメルチさん（元 OWHED 代表）と、リーダーのダンディ（中央）、ボニファシオ